公益財団法人　日本交通公社　出版物のご案内

■自主研究レポート2011／2012
当財団が取り組んでいる自主研究の成果をまとめた論文集。温泉地の住民意識を通して今後の温泉地の在り方を探る研究や、観光地を訪れた観光客の「感情」や満足度の調査を競争力の高い観光地づくりにつなげる研究など、新しいアプローチを試みた研究を収録。併せて当財団が主催するセミナー、シンポジウムや出版物の概要についても紹介。二〇一二年八月発行。

■旅行年報2012　最新刊
直近年間の旅行・観光市場にまつわるあらゆる出来事について、数多くのデータ・資料を基に分析。日本人の国内・海外旅行、外国人の訪日旅行、観光産業、国内観光地、観光政策など、さまざまな角度から旅行・観光市場の現状を一望できる一冊。二〇一二年九月発行。

■旅行者動向2012　最新刊
最新の旅行の実態や旅行者の意識に関する全国アンケート調査結果を、当財団独自のさまざまな切り口で分析。グラフや図表を多用して分かりやすく解説。政策立案や事業展開などに幅広く活用できるマーケティングデータ集。二〇一二年十月発行。

■観光実践講座　講義録　最新刊
人を活かし、まちを活かす観光の考え方
～見えない価値を見せる「まち歩き」の実践
毎年十一月に当財団が主催している二日間の講座講義録。今回は各地で人気の「まち歩き」に着目。「長崎さるく博」総合プロデューサーで「大阪あそ歩」の仕掛け人、茶谷幸治氏が、人を活かし、まちを活かす「まち歩き」の思想と哲学を熱く語ったほか、各地の事例から実践的なノウハウも多数。また六月開催の基礎講座より、㈱四万十ドラマの畦地履正社長の基調講演も収録。二〇一三年三月発行。

※当財団出版物のご注文はホームページからお願いします。
担当：公益財団法人日本交通公社 観光文化事業部
電話 03・5255・6073 http://www.jtb.or.jp

次号予告

●団塊世代、さらにその上の世代の人々がアクティブシニアといわれて、いろいろなマーケットでターゲットとされてきました。アクティブシニアは本当に〝アクティブ〟だったのでしょうか。また、次の世代がシニアの仲間入りすることで何が変わっていくのでしょうか。次号特集では、今後十年間におけるシニアマーケットの変化について、専門家にご執筆いただくとともに、旅行・観光産業における開発・実践例や先行的研究について取材を行い、今後のシニアマーケットにおける旅行需要がどのような方向に変化していくかを考察します。

当財団からのおしらせ

「2013年度シンポジウム・セミナー」
当財団では今年度も恒例のシンポジウム・セミナーを主催する予定です。

六月　観光基礎講座
七月　海外旅行動向シンポジウム（東京）
十一月　観光実践講座
十二月　旅行動向シンポジウム

最新情報・詳細については、準備ができ次第、当財団ホームページのインフォメーションでご案内します。

「研究員コラムの紹介」（二〇二一年十二月～二〇一三年二月）
行く先々で見て触れて、そして地元の人たちと語り、感じたこと。世相のなかに見た観光の未来像など、各研究員が独自の経験と視点を基にして、ホットな雑感を綴ります。当財団ホームページ「研究員コラム」に掲載した三カ月分をご紹介します。

1881　続・観光地の「断る力」
　　―オーストラリア・ロード・ハウ島の事例から――（菅野正洋）
1882　2012年を振り返って
　　―観光産業のイノベーションの芽を育てよう――（大野正人）
1883　年頭コラム「小さな幸せ」探し――（小林英俊）
1884　歩いてわかった「まち歩き」の進化――（久保田美穂子）
1885　VFRがひらくツーリズムの未来――（黒須宏志）
1886　Duty Free からみた国際競争力――（塩谷英生）

当財団ホームページURL http://www.jtb.or.jp/ 研究員コラム で検索

編集後記

◆遠く長い道のりを経てようやく宿にたどり着き、仲居・女将（おかみ）らに迎えられ、差し出された茶と地元の菓子をいただきながら宿帳に記載を済ませる。ようやく自分の空間になった部屋で今宵（こよい）の宿にいるという安心感と安堵（あんど）感に浸りながら旅具を解き始める。

◆この感覚は今や昔の話になってしまったのでしょうか。短時間で空間を移動してしまう移動手段の発達が、泊まる場所、宿への私たちの感覚に影響を及ぼし、自身の身体と心を休める場所へようやくたどり着いたという印象が薄れてきたのかもしれません。ホテル・旅館に求められることはなんでしょうか。

◆宿屋が地域コミュニティと外界との接点としての役割を担ってきたことが世界共通だと分かりました。流行に合わせることに気を取られるよりも、固有の地元力を背景に宿泊者・地元業者や住民にとって「地域交流の場」となる、持続可能な開かれたホテル・旅館の在り方が今後の鍵になりうると気づかされました。（片桐）

観光文化編集室メールアドレス：
kankoubunka@jtb.or.jp

観光文化217号やバックナンバーをPDFで閲覧できます。観光文化最新号 で検索

【観光文化216号　お詫びと訂正】
二カ所誤りがありました。以下のように訂正させていただき、謹んでお詫び申し上げます。
・表紙・1ページ　巻頭言の英文標題
　Implementation（正）　Inplementation（誤）
・43ページ　連載Ⅱ　下段後ろから6行目
　Everything's gonna be OK（OKを追加）
（観光文化編集室）